

令和4年版
岡山県環境白書(概要版)

The
Environment
of Okayama

おかやま環境レポート

2022



岡山県環境基本計画



計画の目的

岡山県環境基本条例の理念に基づき環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

目指す姿(長期的な視点)

より良い環境に恵まれた
持続可能な社会
～山から海まで豊かな
岡山を次世代へ～

具体的な取組

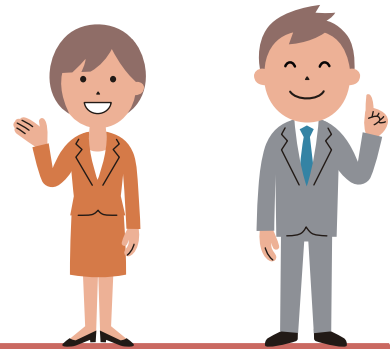
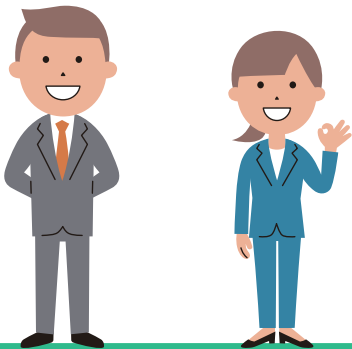
(令和3年度～令和6年度)

基本目標

気候変動対策(緩和・適応)の推進
循環型社会の形成
安全・安心な生活環境の保全と創出
自然と共生した社会の形成

横断的な視点

環境の未来を支える担い手づくり
環境の未来を創る経済振興



短期的な取組

～令和6(2024)年度

長期的な視点

令和22(2040)年頃

具体的な取組

目指す姿(長期的な視点)に向けた
4年間(短期)の取組

目指す姿

岡山県の将来の姿

エコビジョン 2040って どんな計画?

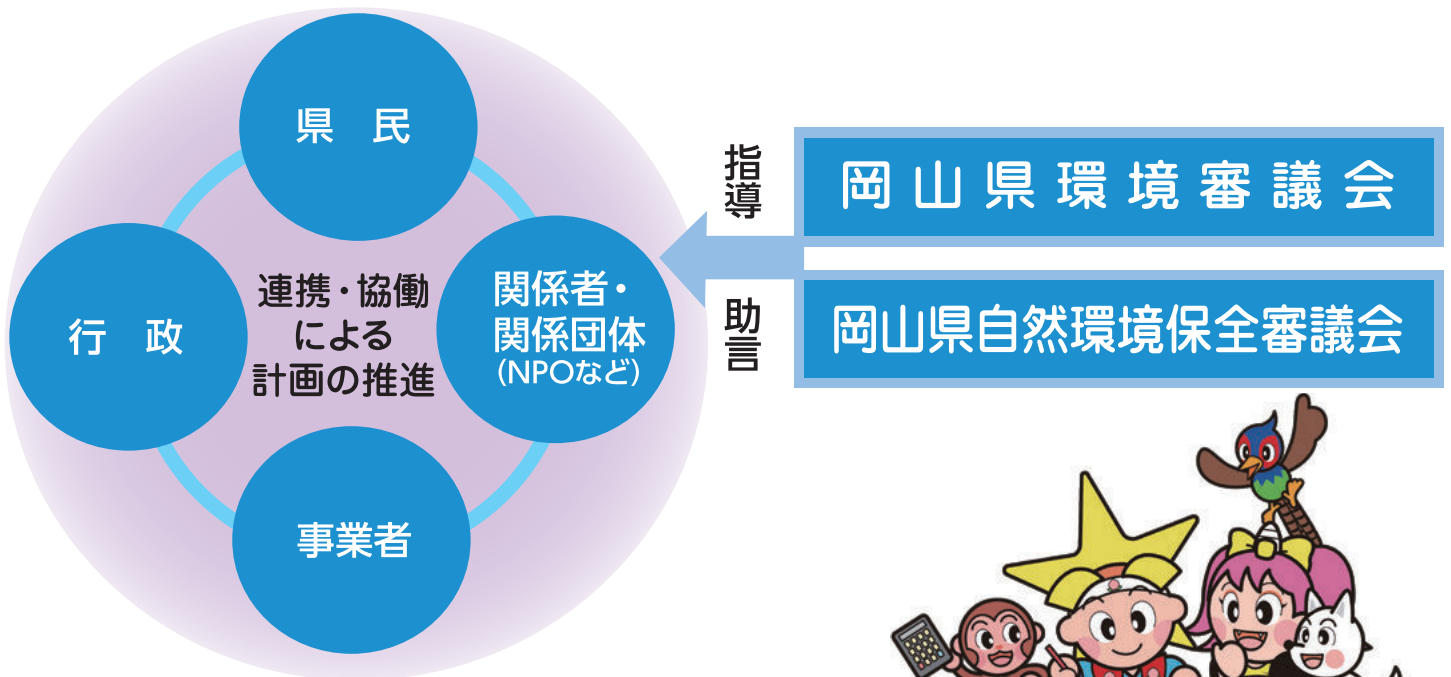
- ・エコビジョン2020をベースにしつつ、近年の国内外の社会情勢や課題を踏まえて見直し
- ・基本目標の一つとして気候変動対策をピックアップ
- ・より分かりやすくなるよう計画の中身を整理

体系図



連携体制のイメージ

県民や事業者、行政などが一体となって、目的や目標だけでなく、成果と課題も共有し、“参加と協働”により計画を推進します。さらに有識者等からなる「岡山県環境審議会」において、エコビジョン2040に掲げる施策・事業の進め方や進捗状況等について助言等をいただきながら、総合的かつ計画的に推進します。



©岡山県マスコット
「ももっち・うらっちと仲間たち」

（緩和・適応）の推進
気候変動対策



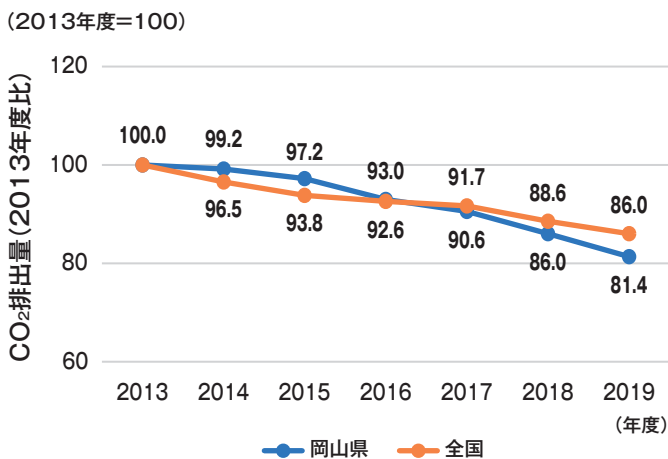
地球温暖化対策の取組をさらに進めるため、新エネルギーの導入促進や省エネルギーの推進のほか、脱炭素社会に向けたライフスタイルの定着、森林保全等による吸収源対策などに取り組むとともに、気候変動影響の被害を回避・軽減する適応策についても、具体的な取組につなげていくための検討や調整を進めます。

現状と
課題

県は令和2年に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、「岡山県地球温暖化防止行動計画」に掲げる目標達成に向け、太陽光発電などの新エネルギーの導入促進や県民の意識を変える取組を進めています。

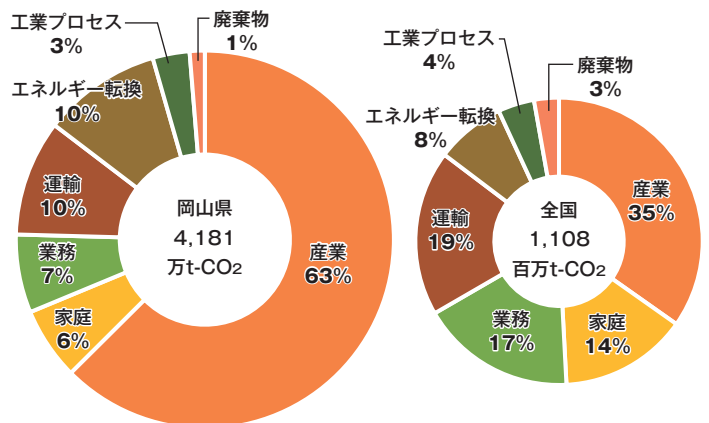
温室効果ガス排出量を削減するため、県民や事業者などすべての主体が、気候変動（地球温暖化）の問題を自分のこととして考え、行動していくことが重要です。

■温室効果ガス排出量の推移



2019年度（速報値）における温室効果ガス排出量を2013年度と比べると、全国が14.0%減少、岡山県は18.6%減少しています。

■二酸化炭素排出量の構成比(2019年度(速報値))



二酸化炭素排出量の部門別構成比を全国と比較すると、岡山県は産業部門の占める割合が際立って大きいことがわかります。

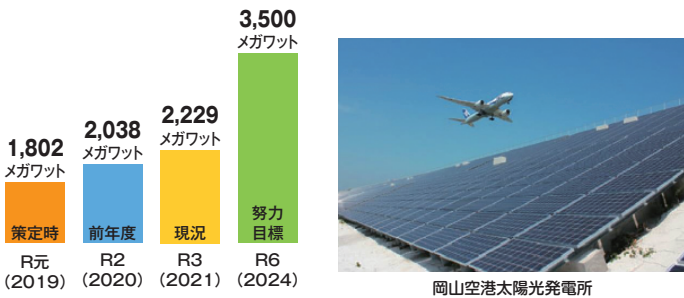
主な重点プログラムの進捗状況

太陽光発電の導入促進

令和3(2021)年度末現在、県内に設置された太陽光発電総設備容量は、2,229MWとなっています。

今後、自然環境や景観に配慮し、安全な導入が進むよう取組を推進します。

指標 県内に設置された太陽光発電総設備容量

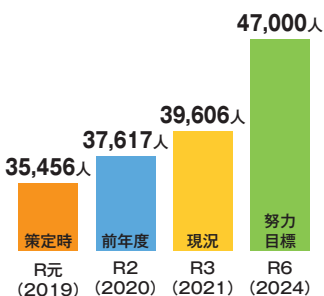


エコドライブの推進

環境に配慮した自動車運転「エコドライブ」を推進するため、エコドライブに積極的に取り組むことを宣言する「エコドライブ宣言者」を募集し、宣言者を登録しています。

令和3(2021)年度は、1,989名を「エコドライブ宣言者」として登録しました。

指標 エコドライブ宣言者数



エコドライブ宣言者には「エコドライブステッカー」を進呈しています。



岡山県 エコドライブ



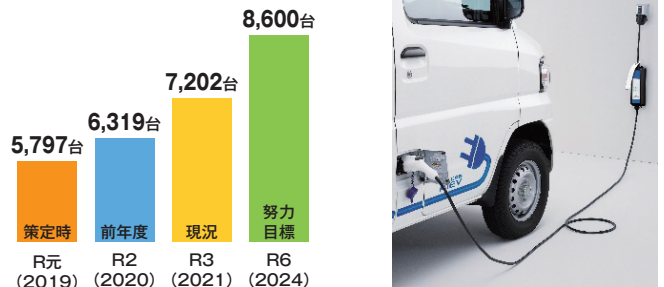
電気自動車等*の普及促進

令和3年度は、県民によるEV試乗モニター事業を実施したほか、充電環境の整備への支援などに取り組みました。

EVの優れた運転性能や環境性能などのPRや充電設備の設置の支援により、EV等の普及を促進します。

*電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHEV)、燃料電池自動車(FCV)

指標 電気自動車等の普及台数



岡山県 電気自動車

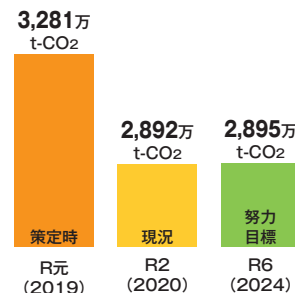


温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による排出量の削減

事業者の自主的な取組を推進するため、県内で一定量以上の温室効果ガスを排出する事業者(特定事業者)の排出量を、県で公表しています。

令和3(2021)年度は、省エネ出張相談、WEBオンラインセミナーを実施し、事業者の省エネの取組を支援しました。

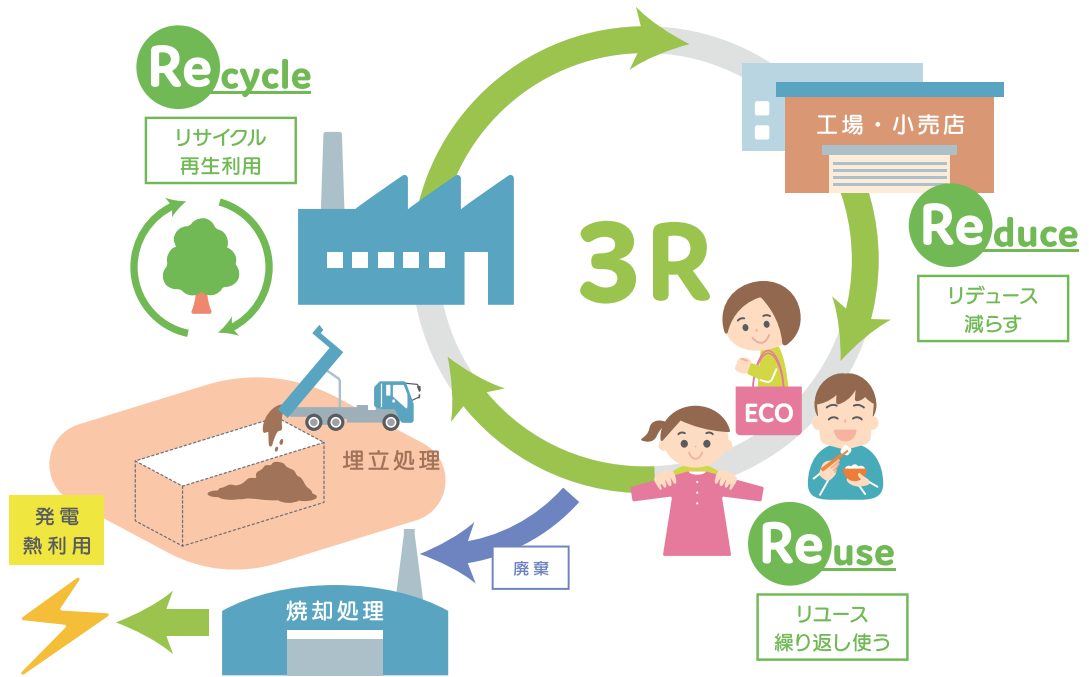
指標 特定事業者温室効果ガス排出量



岡山県 温室効果ガス排出量



循環型社会の形成



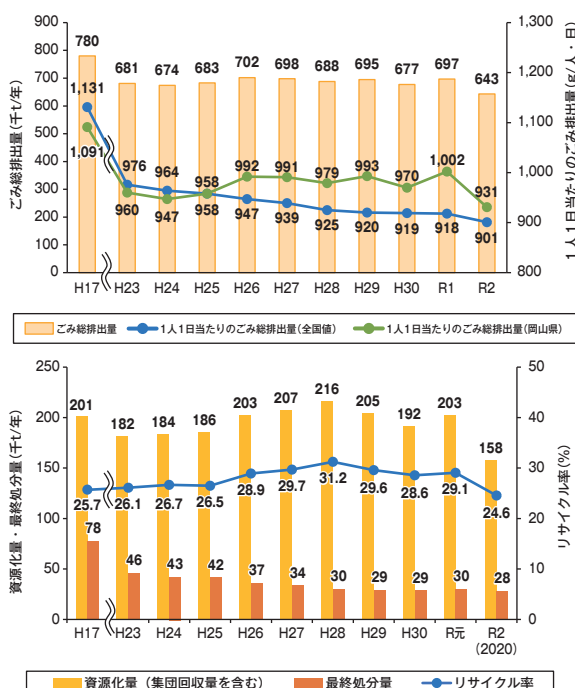
資源循環等により環境への負荷を可能な限り抑える”循環型社会”の形成に向け、キャンペーン等を通じた意識の醸成や実践行動への働きかけ、3 Rの促進、廃棄物の適正処理の推進などに取り組むほか、災害時の廃棄物処理が円滑に行えるよう、地域ごとの体制づくりを支援する取組を進めます。

現状と課題

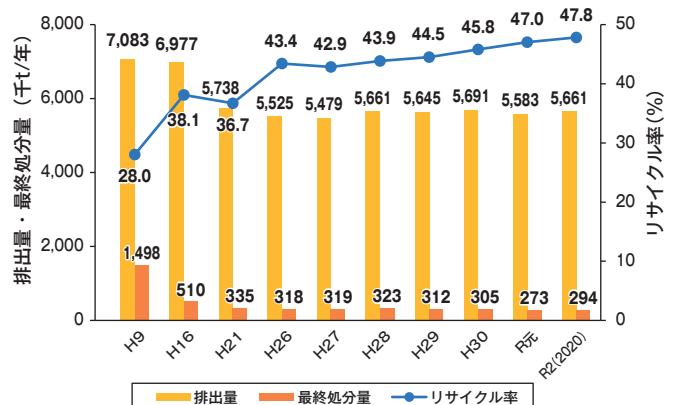
県では、岡山県循環型社会形成推進条例や岡山県廃棄物処理計画に基づき、循環型社会の形成に向けた取組を進めており、取組の成果として、廃棄物の排出抑制・再資源化率が向上しています。

今後は、食品ロスの削減や海ごみ対策などの新たな課題にも取り組み、廃棄物の発生抑制や資源の循環利用を促進し、環境負荷を低減する循環型社会に転換していくことが必要です。

■県内の一般廃棄物(ごみ)の発生及び処理状



■県内の産業廃棄物の発生及び処理状況

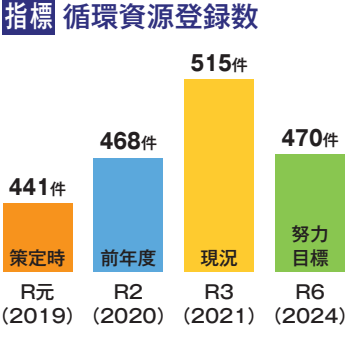


県内の一般廃棄物(ごみ)と産業廃棄物の発生・処理状況です。ごみの排出量は減少傾向(左上)にあり、埋立処分量も再資源化が進んだことにより減少(左下)しています。産業廃棄物の排出量は、近年横ばい傾向ですが、リサイクル率は緩やかに増加し、最終処分量は減少傾向にあります(右上)。

主な重点プログラムの進捗状況

循環資源マッチングシステムの 利用促進

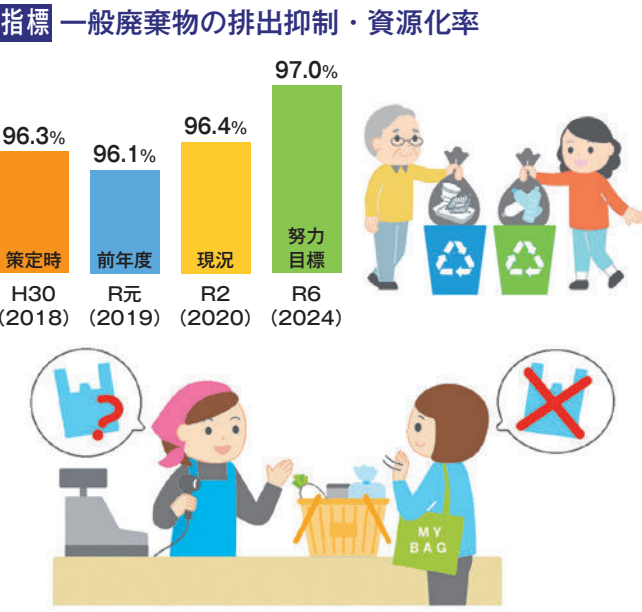
循環資源マッチングシステムにより、インターネット上で循環資源の提供者と利用者のマッチング(あっせん)を行い、循環資源の有効活用の促進に取り組んでいます。
循環型社会実現に向け、引き続きシステムの利用を促進するとともに、プラスチック3Rや食品ロスの削減を推進します。



「食品ロス」を減らすため、「もったいない」という気持ちを大切に、1人ひとりができることから始めよう！

一般廃棄物の3Rの推進

一般廃棄物(ごみ)の排出量は、多少の増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、再資源化の取組が進んだことから埋立処分量も平成13(2001)年度以降減少が続いています。
引き続き、一般廃棄物のリサイクルの推進に向けて、制度の周知などに取り組めます。



海ごみ対策の推進

瀬戸内海のごみの多くは、内陸部で発生したごみが、河川や用水路などを通じて流入する生活系のごみです。
市町村や経済団体等と連携し、県内一丸となった海ごみ対策を推進しているほか、瀬戸内沿岸4県(岡山県、広島県、香川県、愛媛県)と日本財団で構成する「瀬戸内オーシャンズX」においても、調査研究や地域連携など様々な角度から海ごみ対策に取り組んでいます。



令和2(2020)年12月、瀬戸内4県と日本財団で瀬戸内オーシャンズXの協定を締結

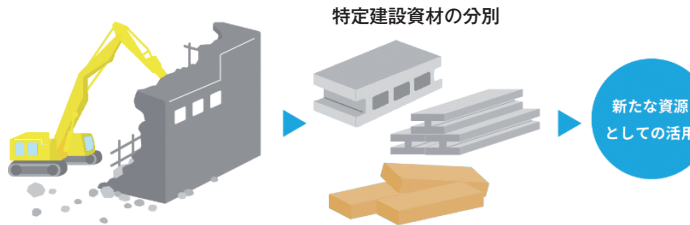
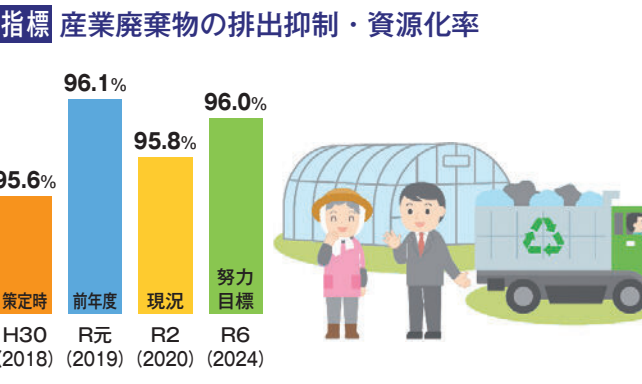
プラスチックごみが、紫外線や波の力で壊れて、5mm以下まで細くなったものを「マイクロプラスチック」と言います。環境への影響が懸念されており、様々な調査研究が進められています。



環境省提供

産業廃棄物の3Rの推進

近年、県内の産業廃棄物の排出量は横ばいですが、再利用率は上昇傾向、最終処分量は減少傾向にあります。
引き続き、産業廃棄物の適正処理及び3Rの推進に向けて、排出事業者や関係事業者への指導・助言、制度の周知などに取り組めます。





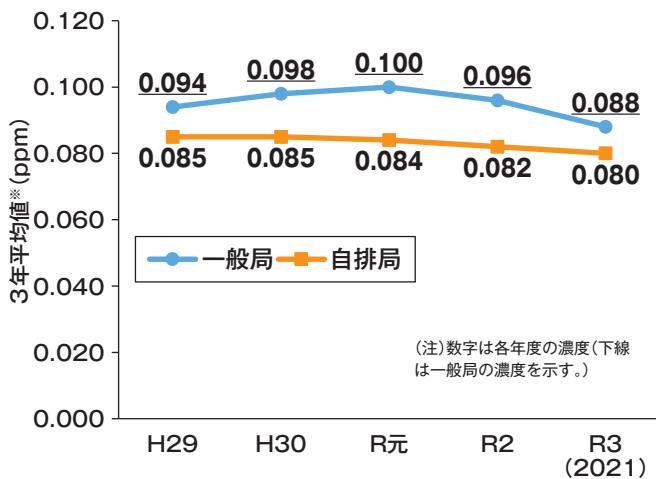
大気環境を保全するため、PM2.5対策をはじめ、工場・事業場の指導、騒音・振動・悪臭の防止、アスベストやダイオキシン類などの有害化学物質による環境汚染防止、環境放射線の監視など、様々な対策を講じます。

現状と
課題

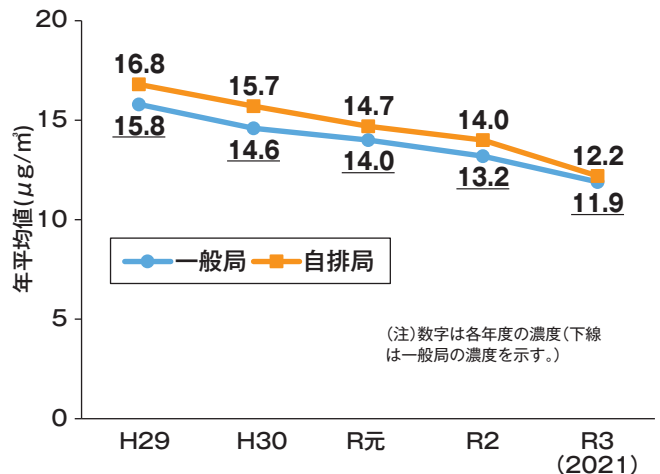
県内の大気環境の状況は、硫黄酸化物や窒素酸化物など、代表的な大気汚染物質は環境基準を達成していますが、光化学オキシダントや微小粒子状物質（PM2.5）は、環境基準が未達成又は継続的に達成できていない状況です。これに対し、県ではメール配信による情報提供や、稲わら等の野焼きを減らす取組を進めていますが、これまでの取組と併せてなお一層の推進が必要です。

また、有害化学物質による環境汚染や人への影響を防ぐため、環境中の存在状況の把握や排出量の削減などが必要です。

■光化学オキシダント濃度（新指標※）の推移



■微小粒子状物質(PM2.5)濃度の推移



※光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための新指標(光化学オキシダント濃度8時間値の日最高値の年間99%タイル値の3年平均値(当該年度を含む過去3年間の値から算出))

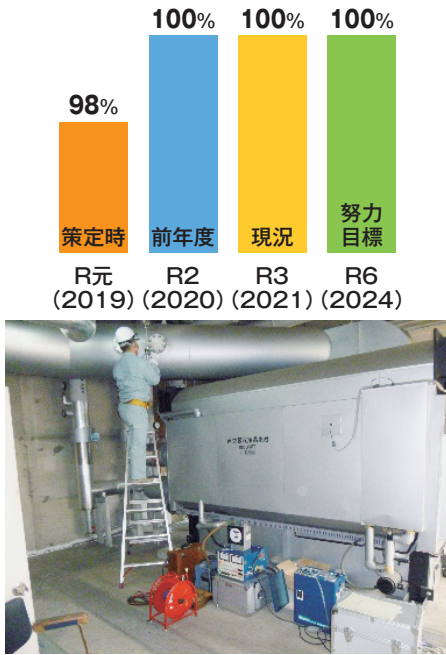
主な重点プログラムの進捗状況

工場・事業場対策の推進 (大気環境の保全)

法・条例に基づき、ばい煙発生施設等を設置する工場・事業場への立入検査を行い、施設の設置状況や排ガスの濃度検査を行っています。

検査の結果、法令違反が確認された場合は、厳正な指導を行っています。

指標 工場・事業場の排ガス等基準適合率

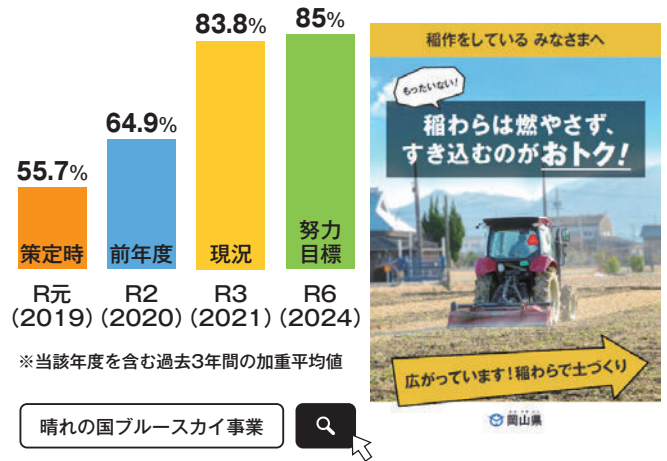


微小粒子状物質 (PM2.5) 対策の推進

県内におけるPM2.5の発生原因の一つである秋期の稲わらの野焼きを減少させるため、令和2(2020)年度から「晴れの国ブルースカイ事業」に取り組んでいます。

その結果、令和3(2021)年は事業実施前の令和元(2019)年と比べ、対象地域での野焼き面積が約3割減少し、PM2.5の環境基準達成率も改善が見られました。

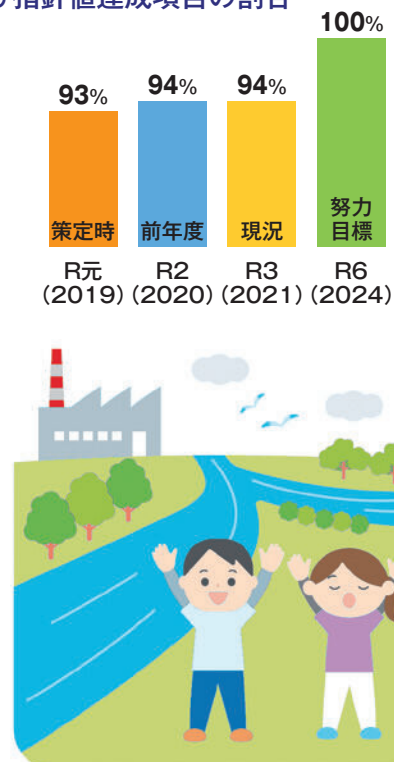
指標 PM2.5環境基準達成率(※)



有害大気汚染物質対策の推進

令和3(2021)年度、県内13地点で国が定める優先取組物質等22物質の測定を行ったところ、環境基準が定められている4物質は全地点で環境基準を達成しました。

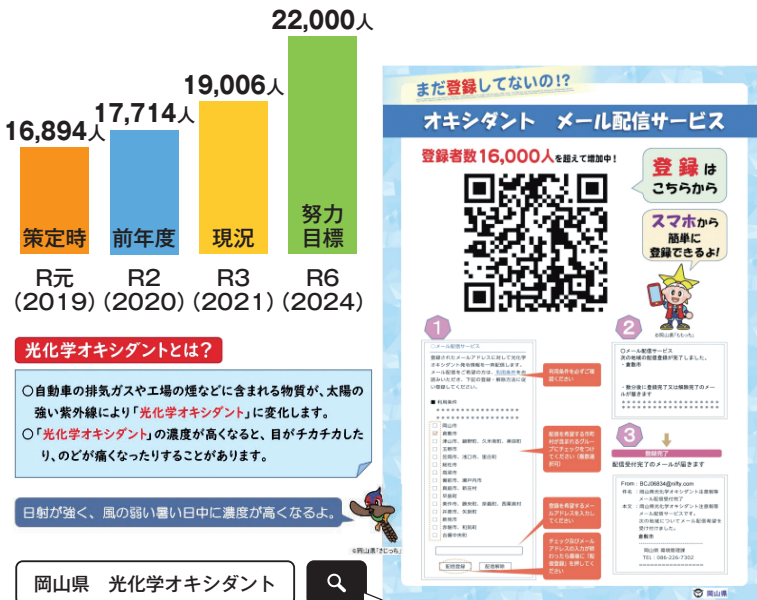
指標 有害大気汚染物質等の環境基準及び指針値達成項目の割合

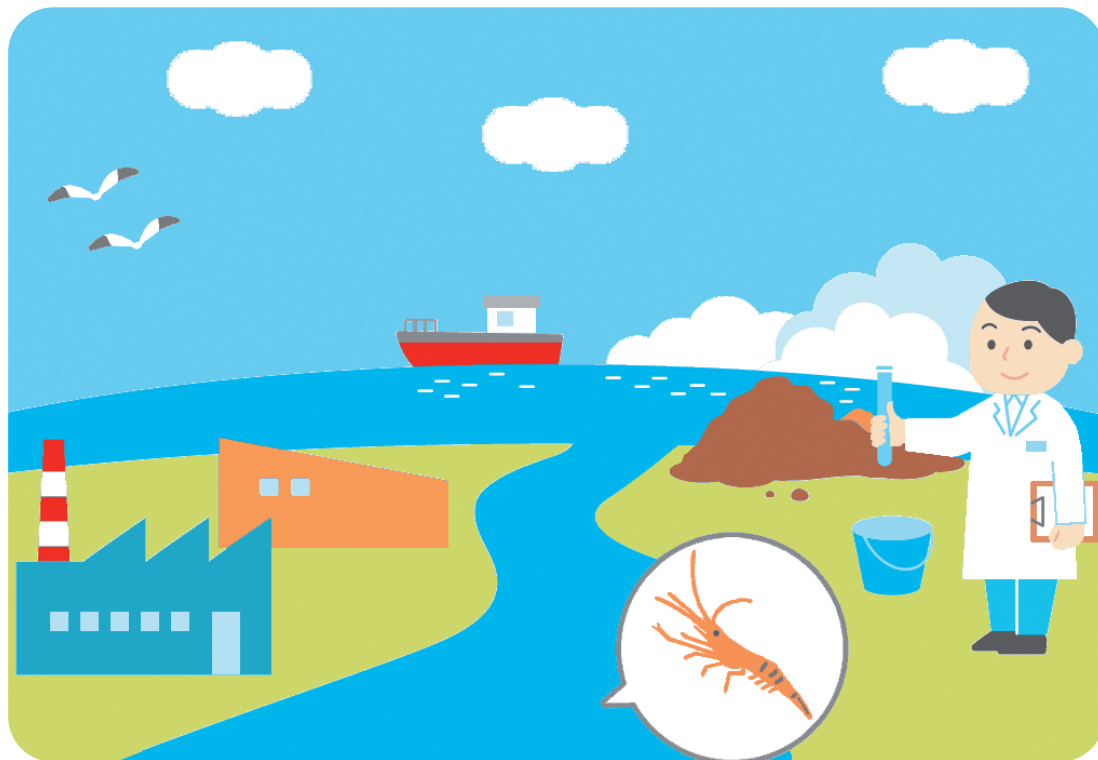


大気汚染防止夏期対策の実施

光化学オキシダントが高濃度になりやすい夏期には、岡山県大気汚染防止夏期対策本部を設置し、監視体制の強化、注意報等の発令情報をお知らせするメール配信サービスへの登録の周知などに取り組んでいます。

指標 オキシダント情報等メール配信登録者数





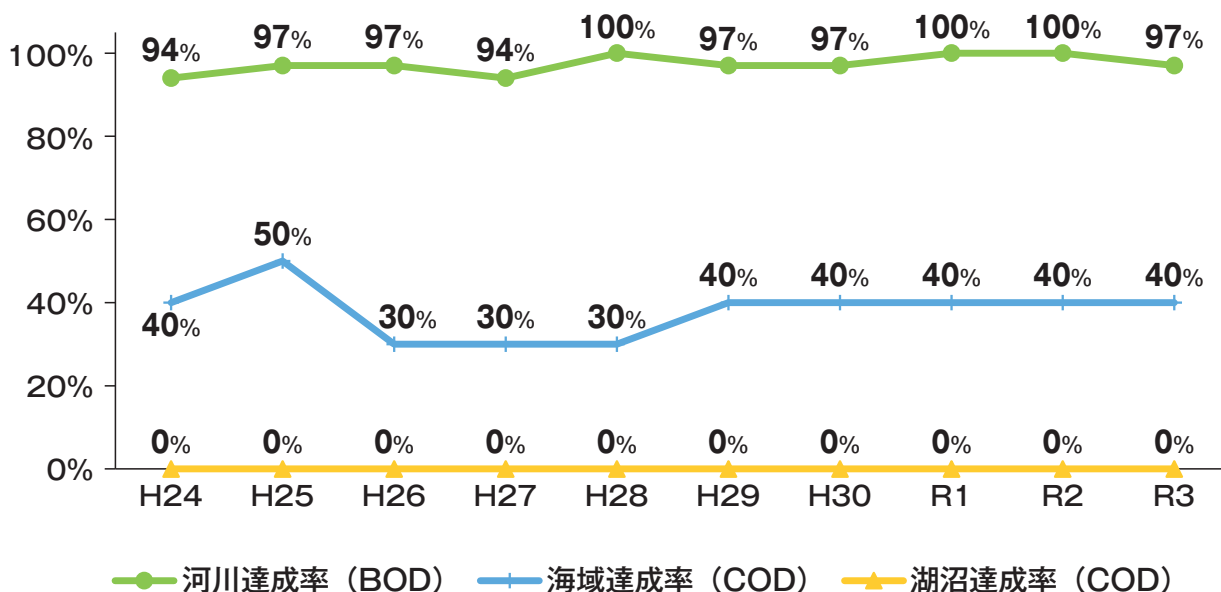
岡山県は、高梁川、旭川、吉井川の三大河川や美しい瀬戸内海など恵まれた水環境を有しています。県では、工場への指導や生活排水対策などにより、良好な河川水質の維持、児島湖や瀬戸内海の保全・再生、川や海の生態系の保全など、様々な対策を講じます。

現状と
課題

県内の水環境の状況は、河川のBODはほとんどの水域で環境基準を達成していますが、海域のCODは40%前後で推移しています。また、児島湖のCODは、近年は横ばい傾向で、環境基準の達成には至っていません。一方で、瀬戸内海の栄養塩類の管理など新たな課題もみられています。

こうした状況を踏まえ、これまでの対策を継続しつつ、児島湖のイメージ改善の取組や瀬戸内海の藻場の再生など、新たな視点やアイデアを取り入れながら対策を進めていますが、なお一層の推進が必要です。

■県内公共用水域の環境基準達成率(BOD・COD)の推移

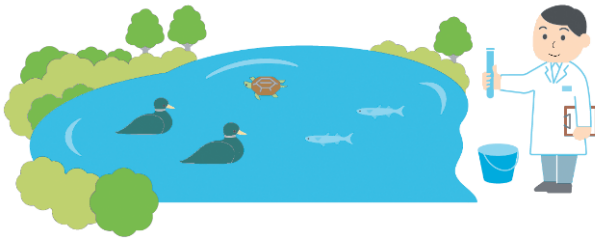
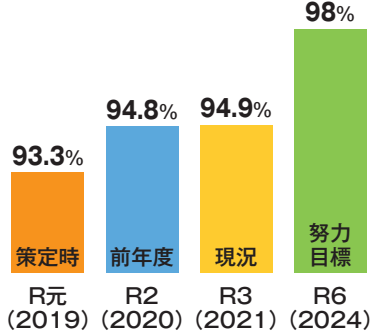


主な重点プログラムの進捗状況

工場・事業場対策の推進 (水環境の保全)

法・条例に基づき、特定施設等を設置する工場・事業場への立入検査を行い、施設の設置状況や排水の濃度検査を行っています。
検査の結果、基準違反が確認された場合には、厳正な指導を行っています。

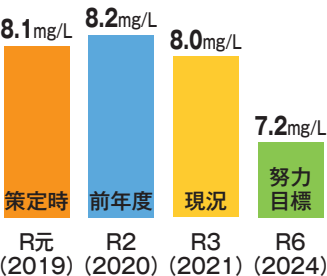
指標 工場・事業場の排水基準適合率



児島湖再生の推進

閉鎖性水域である児島湖は、流域の都市化などにより水質汚濁が問題となり、下水道の整備などにより水質は緩やかに改善されてきましたが、近年は横ばい傾向にあります。
令和3年度は、従来からの環境保全対策に加え、児島湖に生息するテナガエビを地元中学校の給食で提供するなど、実際の水質以上に「汚い」という児島湖のイメージを改善する事業にも取り組みました。

指標 児島湖の水質(COD) ●児島湖に生息する生物



児島湖流域清掃大作戦

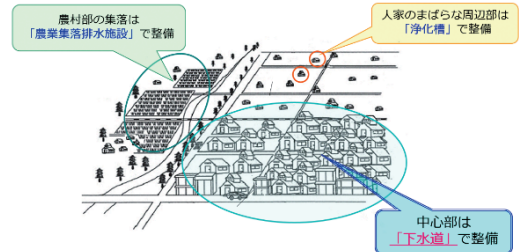
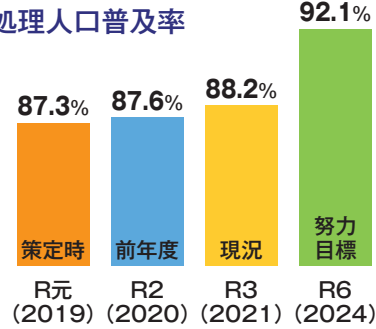


児島湖ハンドブック

生活排水対策の推進

私たちの家庭から出る生活排水は、川や海などの水質汚濁の大きな要因となっています。
県では、クリーンライフ100構想などに基づき、下水道や合併処理浄化槽などの整備を進めるとともに、下水道への接続促進を呼びかけるほか、浄化槽の適正な管理、家庭でできる生活排水対策の啓発などに取り組んでいます。

指標 汚水処理人口普及率

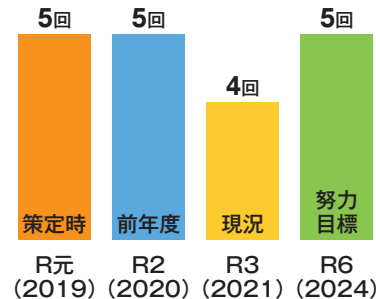


汚水処理施設の種類と概念図 (出典：国土交通省ホームページ)

沿岸域の環境の保全、再生及び創出

自然海浜は、レクリエーションや憩いの場として多くの人が利用しており、快適な状態で保全されるよう、条例に基づく規制を行うとともに、環境美化活動や環境学習の場として活用するなど、海浜の保全の必要性について啓発を行っています。

指標 自然海岸を活用した環境学習の回数





人と自然が共生した社会を目指し、自然公園の保護や魅力向上による利用促進、希少野生動物など野生生物の保護と管理、体験や学習等を通じた自然とのふれあいの推進、里山の保全やみどりの創出など、本県の豊かな自然や優れた景観を守り、親しみ、次代へつないでいく取組を進めます。

現状と
課題

本県には豊かな自然環境があり、自然とふれあえる屋外レジャーは、新型コロナ禍で改めて県民の関心・ニーズが高まっています。また、近年、多くの生物が絶滅の危機にある一方で、イノシシやニホンジカなど一部の野生鳥獣が増加し、農林水産業に大きな被害を与えているほか、ツキノワグマの人里への出没が安全・安心な生活を脅かしています。

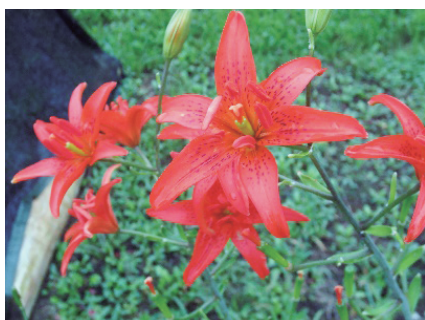
今後は、引き続き自然公園などの豊かな自然を維持・保全するとともに、人と自然との共生関係を構築していくことが求められます。



氷ノ山後山那岐山国定公園



スイゲンゼニタナゴ
岡山県絶滅危惧Ⅰ種



ヒメユリ
岡山県絶滅危惧Ⅰ種



捕獲したツキノワグマ

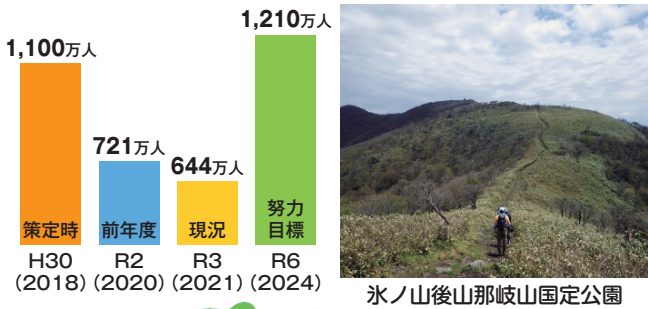
主な重点プログラムの進捗状況

自然公園等の魅力向上に向けた取組

自然公園は、優れた自然景観を保護し、レクリエーションや自然教育の場として利用されています。

自然公園の休憩所や遊歩道などの施設の維持管理に努めるとともに、国の「国立公園満喫プロジェクト」と連携し、自然公園の魅力向上や利用促進を図っています。

指標 自然公園利用者数

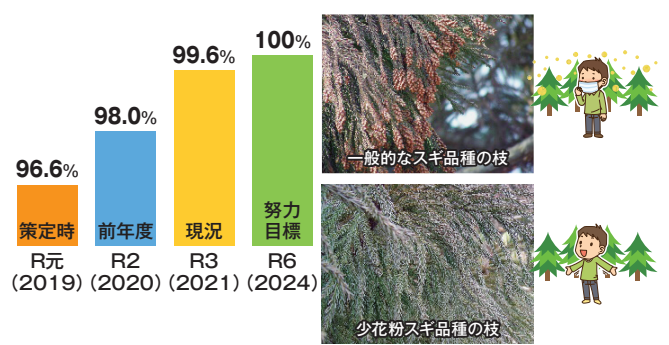


森林の整備による快適な環境の保全

利用期を迎えた人工林において、主伐や利用間伐とあわせて、伐採跡地に少花粉苗木による再生林を推進しています。

木材を利用することは、地球温暖化防止や森林の保全・整備につながることから、県産材の利用を促進しています。

指標 少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替え割合

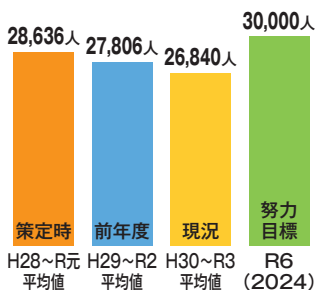


自然とふれあえる体験の場や機会の充実

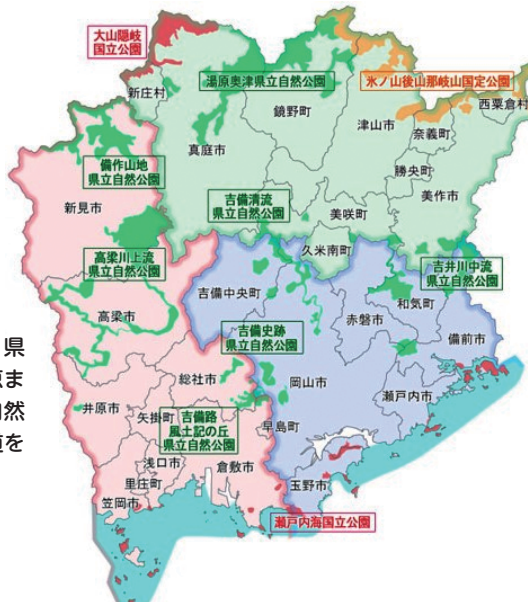
中国自然歩道や自然公園を訪れる人が安全で快適に利用できるように、施設の整備や維持管理を行っています。

また、自然とふれあえる体験の場や機会の増加につなげるため、パンフレットや県ホームページで情報提供を行っています。

指標 身近な自然体験プログラムの参加者数



岡山県は、県北の中国山地から吉備高原、県南の瀬戸内海沿岸まで豊かな自然環境に恵まれています。岡山県ホームページでは、自然公園、自然環境保全地域等、中国自然歩道を紹介しています。

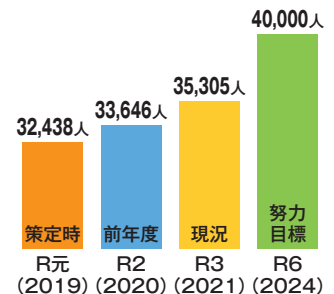


自然環境学習等の推進

優れた里山自然環境を活用し、岡山県自然保護センターでは自然観察会の開催や、人材育成、研究活動等に取り組んでいます。

令和3(2021)年度は、自然学習リーダー養成講座、講師派遣、堅果類調査等に取り組みました。

指標 自然保護センターの利用者数



自然保護センターのタンチョウ

環境の未来を支える担い手づくり

環境保全の取組が、分野や業種、世代や立場を越えたあらゆる主体の参加と協働のもとで進められるよう、体験型の環境学習や環境教育のさらなる充実をはじめ、それらを担う指導者の育成や、関係者間の連携・ネットワークの場の提供、地域活動等の自主的な取組への支援など、担い手づくりに取り組みます。



現状と課題

環境保全の取組を進める上で、あらゆる主体の積極的な関わりが不可欠であり、県では、“参加と協働”の場の提供や、環境学習などを通じた意識の醸成などに取り組んできました。

今後は、指導者の育成や関係者間のネットワークづくり、県民の関心が高い情報の発信などにも、積極的に取り組むことが求められます。

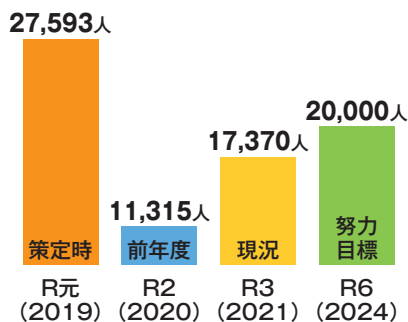
主な重点プログラムの進捗状況

環境学習の機会の提供

環境保全等のため自ら行動できる人材を育成するため、講師を派遣し、様々な体験を通じて環境について学ぶ環境学習出前講座や、見学・体験型の環境学習エコツアーを実施しています。

令和3(2021)年度は、出前講座を377回実施し、エコツアーには2,729名の参加がありました。

指標 環境学習出前講座・環境学習エコツアー参加人数

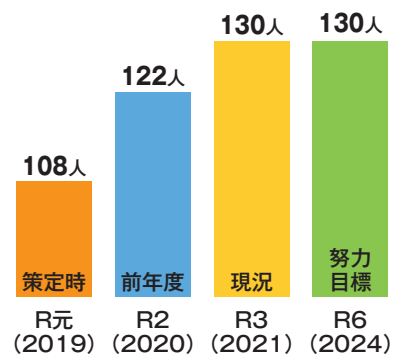


環境学習エコツアー

環境学習指導者の育成・活用

地域における環境学習の指導者のスキルアップや人材育成・確保のため、環境団体の環境学習指導者などを対象に、基礎・専門講座を行うとともに、指導者登録などを行っています。

指標 環境学習指導者登録数



環境学習指導者レベルアップ研修

環境の未来を創る経済振興

世界の潮流や全国的な動きも捉えながら、県内においても、経済の成長・発展と環境の保全の両立が図られるよう、環境関連分野の新技术や研究開発に取り組む事業者への支援や、環境と好循環する農林水産業の振興、環境負荷の少ない経営や製品を認証・認定する制度の普及促進などの取組を進めます。



現状と課題

環境保全は、経済成長や産業振興と同時に進められることが重要であり、県では、産学官連携による環境負荷の少ない製品開発やリサイクル製品の認定などに取り組んできましたが、伸び悩んでいる取組もみられています。

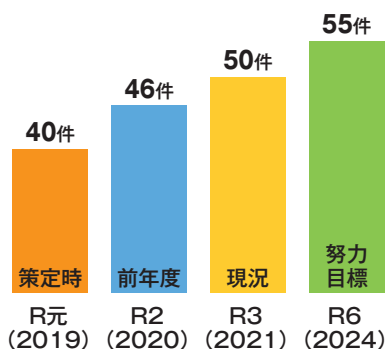
今後、環境と経済が両立する社会の構築に向け、これまでの取組を工夫することや、さらなる意識改革、効果的な施策の展開が求められます。

主な重点プログラムの進捗状況

循環型産業クラスターの形成

産学官で構成する中四国ビジネスネット（B-net）を活用し、企業や大学等の技術シーズと企業ニーズとのマッチング等により、中四国地域を視野に入れた環境産業の振興と循環型社会の形成促進に取り組んでいます。

指標 循環型産業クラスター形成促進事業を活用した製品開発等への取組件数



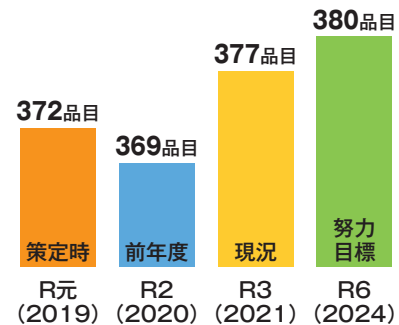
中四国環境ビジネスネット



「岡山県エコ製品」の認定・周知

県内で製造販売されている使用を促進すべきリサイクル製品であって、県が定める認定基準を満たした製品を「岡山県エコ製品」として認定・公表するとともに、これらの製品を積極的に展示・PRし、県内におけるグリーン購入等の普及拡大に努めています。

指標 岡山県エコ製品の認定品目数



岡山県エコ製品



THE ENVIRONMENT OF OKAYAMA

岡山県環境白書 2022

岡山県環境文化部環境企画課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL.086-226-7285 FAX.086-233-7677

e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

